



2学期が終わりました

12月22日、2学期の終業式で校長より2学期いろいろなことに一生懸命全力で取り組んだ14名の児童を讃える話がありました。

その中でも2年生の那優さんのあいさつについて「止まって、相手を見て、大きい声であいさつをする姿が素晴らしい」と褒めました。

その後、児童に『しあわせを願う話』をしました。

天国言葉と地獄言葉のお話を通し、天国言葉を使うことで幸せになれた「肯定ペンギン」の話や言霊ということ、「しあわせは自分で呼び込むことができる」というお話でした。



そのあと、1年生の萌奈さんが「算数や縄跳びができるようになった。冬休みもやりたい。雪が降るのが楽しみ」と紙を見ることせず、聞いてくれる人の方を向いて話をしました。

3年生からは雫月さんが「今学期は字を丁寧に書くことを意識して取り組んだ。縄跳びも100回できるようになった。冬休みも沢山練習しようと思う。サンタさんがプレゼントを持ってきてくれるのが楽しみ」と話していました。5年生の柚芽さんは、運動会のこと、ふれあい児童会集会のことに触れ、「下級生を意識して大きな声でみんなに聞こえるように取り組んだ。絆起くんと一緒にささら獅子舞を舞えたことが印象に残っている」と話しました。



次に、生徒指導の奥秋先生より「冬休みの過ごし方」について色を使い、赤は「火を使うこと」、青は「水の事故、冬は道路が凍るので気を付けること」、黄色は「注意信号で交通事故、ヘルメットをかぶること」、白は「ウイルス、手洗いうがいをしっかりすること」、黒は「心が黒い人たち（知らない人）についていかな



い、携帯でのオンラインゲーム、お年玉の使い方、子供同士でのお金のやり取りはしないこと」等、色を通して話をしているので、児童にとってとても分かりやすく覚えられたと思います。

2学期も無事に終わることができました。

保護者のみなさま、地域の皆さまに感謝いたします。

みなさん、『北風と太陽』というお話をご存じですか？

今日は、このお話を基にみなさんと考えていきたいと思います。



ある時、「北風」と「太陽」が「通りがかった旅人の上着をどちらが脱がせることができるか？」という勝負をします。まず、「北風」が力いっぱい吹いて上着を吹き飛ばそうとしますが、寒さを嫌った旅人が上着をしっかりと押さえてしまい、「北風」は旅人の服を脱がせることができませんでした。次に、「太陽」の番です。「太陽」は燦々と照りつけました。すると旅人は暑さに耐え切れず、今度は自分から上着を脱ぎました。

私は昨年3月まで中学校にいました。中学校はどちらかというと「北風」の要素が多いところではないかと思います。このお話は「北風」は負けてしまいましたが、子供たちの発達段階に応じて「北風」の部分はどうしても必要です。

教育とはすぐに目に見えて効果が表れにくいことが、指導しているものにとってはいつも悩み続けるものです。当時の主任がある時、このようにいいました。

「私たちが今、指導していることは目に見えて現れないけれど、子供たちを指導していることは、未来の地域の治安にかかわることなのよ。だから、子供たちを育てるってことは、町の将来も育てるってことなの。だから、結果が見えずに滅入る時もあるかもしれないけれど、信じて続けましょう」と。その時に、自分たちの指導は、子供だけでなく住んでいる社会全体の未来もかかわっているということを教えてもらいました。それからそのことも頭に入れ、指導してきました。

卒業していった子どもたちが少し見ない間にすごく成長している姿を見て、「あの時があったから今、自分は頑張れている」と感謝され、自分たちが関わってきた時間は間違っていなかったのだと何年かして落ち着くことができます。そして、やはり、「地域の方とのかかわりの大きさ」に感謝するのです。

中学校は、義務教育修了というゴールが見えているので、「社会に出ていける人間にすること」も視野に入れて指導をしていきます。時には「北風」のように心を鬼にして冷たく指導することや手出しをせず遠くで黙って見守ることもあります。でも、ずっと「北風」ではありません。生徒に寄り添い、「太陽」の日差しも出し、子供たちが自分の力で歩き出せるよう見守ります。小学校でも高学年になっていくにしたがって、少しずつ中学校に入る準備をしていくことが大事です。いつまでも「太陽」だけでなく、「北風」の要素も出しつつ、子供たちが大人に近づく手助けをしていきます。

年齢によってできないことも勿論、あります。しかし、**丹波山村の子たちもいずれ世界に羽ばたいていき、どこでも通用する子供たちにするために**、「北風」「太陽」を使い分けること、そして、それは学校だけでなく、家庭や地域でも同様に役割分担をし、子供たちの成長を育てていけたらと思います。

